

小児・障がい児（者）リハビリテーション専門研修（岐阜県委託事業）報告書

日時：令和7年2月1日（土）8:50～17:00

形式：ハイブリッド開催（対面&オンライン）

場所：岐阜県総合医療センター 講堂

テーマ：小児福祉機器、アシスティブ・テクノロジーの導入への理解

～実際に触って体験してみよう！～

講師：岐阜県医療福祉連携推進課 障がい児者医療推進係 辻加奈子様

(株)K-support 岐阜 水谷 圭吾 様、日比 和也 様

(株)アシテック・オコ 小林 大作 様（認定・専門作業療法士・福祉情報技術コーディネーター1級・デジタルアクセシビリティアドバイザー（DAA）standard）

参加者：47人（対面：36人・オンライン11人）



昨年度と同様に今年度も対面と Zoom 併用での開催となりました。

辻様には、岐阜県における重症心身障がい児者の実態や医療支援施策についてご講演いただきました。岐阜県における医療的ケア児のなかで医療依存度の高い超・準超重症患児者の割合は17.3%を占め、その中でも20歳未満が特に多いとの報告を受けました。県の施策として小児・障がい児者に関わる制度や家族支援のために在宅支援センター「みらい」の運営や障がい児者入所施設の整備を実施することで、少しでもご家族様の負担が減り、安心した生活が提供できることを期待します。

K-support 岐阜の水谷様、日比様からは、補装具費支給制度と補装具の選定方法、姿勢保持装置の試乗体験を実施していただきました。新規で補装具申請を行う中で、申請のタイミングとして12月前には慎重に動かなければいけないということを知り、今後補装具を作成していく際は時期にも注意していきたいと思いました。姿勢保持装置やバギー作成に関しては体幹機能障害3級以上でないと支給対象にならないということ、姿勢保持装置(パンダやシュクレ)に試乗し、特徴やメリット等も学びました。

小林様の講義では、重度の障害を有する子どもの生活を、テクノロジーを活用することで「できない」ことを「できる」ようにし、その子にとって「何が必要か」を作り上げていくということに感銘を受けました。実際に支援機器を触ってみてアームサポート MOMO の機能や目的、スイッチやおもちゃ1つでも何を目的に取り入れるかでその子のQOLを高めることができる可能性も学ぶことができました。

今回の講義は、小児リハビリの可能性を広げる貴重な時間であったと改めて感じました。これをきっかけにたくさんのセラピストが小児に関わり、また講師の先生方の講義がありましたら積極的に参加していただきたいと思います。

こども福祉部 高橋和希